

# 桐鈴凜々

第83号  
平成24年5月15日発行  
発行責任者  
社会福祉法人 桐鈴会  
理事長 黒岩 秩子  
南魚沼市浦佐 5142-1  
電話 025-780-4118  
FAX 025-777-3731  
e-mail  
suzukake@rose.ocn.ne.jp  
http://www17.ocn.ne.jp  
/~tourei/

「とんとん」だけになりました  
— 皆さんのご協力に感謝 —

桐鈴会理事長 黒岩 秩子



先号でご協力をお願いしましたところ、皆さんから色々な形でのご協力があり、何とか「とんとん」の準備が始まっていきそうです。様々な、融資や、寄付という形でのたくさんの方からのご協力には、深く深く感謝しています。ありがとうございます。

先号が刷り上がった時に、県庁から連絡が入って、「とんとん」「おひさま」二つは無理で一つになったというのです。何しろ東日本の災害に多額の費用が掛

かるので、県庁に下りてきた額が少なくても二つは無理、とのこと。仕方がないとあきらめざるを得ませんでした。一つになったおかげで、用意する資金が少なくて済み、その点では、ありがたかったともいえるのです。有利子の融資は受けなくて済みそうです。

遠くに住む方々にとっては、日中だけ「とんとん」に通うことはできないから、隣にケアホーム「おひさま」ができて初めて「とんとん」を利用できる、ということなのですが、そうい

う方には、一年待つていただかなくてはならなくなりました。ごめんなさい。

先日も、埼玉の施設に入居している方が、実家に近いしぜひ「おひさま」に入居したいと訪ねてこられたのですが、来年度までお待ちくださいと言うしかありませんでした。

「とんとん」に勤めたいという方、ボランティアとしてかわわっていききたいという方が四月一七日初めて顔合わせをしました。森山里子、広田セツ子が二人でパンの勉強会をしていて、そこで「先生」をしてくださいっている方がパートさんとして勤められるということなので、初めてお目にかかりました。森山、広田二人が口々に「この方のパンやお菓子は最高」と言って、ほかのどれを食べてみても「彼女のほうがおいしい」と太鼓判を押している方です。

県庁のほうから「とんとん」に対して要請がありました。それは、災害があつた時に避難場所として使えるように整備してほしいということでした。東日本大震災の時に亡くなった方の

率が、健常者に比べて障がい者は二倍だったという結果がありますが、逃げ足そのものが遅いうえ、避難場所でも条件が厳しくなってしまう。そんな不利益を解消すべく、障がい者用の避難場所をもっと確保しようということになったようで、私たちの望むところ。そのために費用は余計に掛かるけど、助成金もたくさんになって、負担は少なくなっています。

二五年四月一日をオーブンの予定で、「とんとん」に向けての準備に取り掛かっていくところです。六月末には国からの認可がおり、七月中には入札して、八月中には着工、一二月か、一月の完成を目指します。その後は四月オーブンの夢を膨らませたいと考えています。

また、喫茶店の名前を募集しましたところ、たくさんの方の応募がありました。考えてくださった方には深く感謝しつつ、もう少し締め切りを延ばして六月末までには決めていきたいと思っています。これからももっといろいろなアイデアをお願いします。



## 「お陰様で一周年」

グループホーム「ひまわり」  
サービス管理責任者

星野淳子

五月一日に、待望の六人目の利用者が入居しました。一年がかりでしたが、やっと満室となりました。昨年四月のオープン当初の入居希望者は、たった二人だけでした。

「障がい者の作業所を持たない法人が、グループホームを先に立ち上げるとは前代未聞！」との声もありました。ただひたすらに丁寧なサービスを心掛ければ、利用者は必ず来てくださる！と信じて世話人三人と努力しました。

三魚沼の支援センターや各作業所の関係者の方々が、親身になって対応してくださいました。各関係機関のご協力無しには、この日を迎えることは困難だったと思います。深く感謝し御礼申し上げます。

利用者の皆様は、一〇代後半から六〇代と年齢幅が広く、十

## ひまわり1周年



美味しかったバイキング食卓

日町市、魚沼市、南魚沼市塩沢出身者が五名、地元出身者是一名です。予想よりも年齢層が高く、日頃の健康管理に注意が必要です。三人の世話人と二人三脚で、弥次喜多道中のような毎日を送っています。時には怪我也もあり、季節の変わり目には精神的な体調不良で、病院受診に同行することもあります。軽度・区分一の方が対象とはいえず、全く手放しでという訳にはいきません。

またひまわりの利用者が土日には桐の花でボランティア協力してくれ、施設間の交流にも役立っています。桐鈴会の職員が温かく応援してくれ、心強く思います。

大きな課題は自立支援です。大きな課題は自立支援です。から、声掛けをどう行うか、どう支援すれば自立できるのか、課題は山積みです。とはいえず、利用者の皆さんが家族同様安心して過ごせることが一番かと思えます。皆さんの声に耳を傾け、ぬくもりのある我が家を目指して行きたいと考えております。

入所前のご近所説明会の時は、何人かから「夜泊まりの職員がいなくて、火は大丈夫か」などの不安が語られていましたが、一年たってみると「みんなにこのこと挨拶してくれるしー」など、好意的な声になってきました。

四月二十八日(土)、ホテルオカベで一周年記念のバイキング食卓会をしました。皆大盛り皿を何杯も食べて、思い思いに語り合いました。

なお去年一〇月から、自立支援法の改正によりグループホームへの家賃補助が出るようになり、利用料四六〇〇〇円だったのが、三六〇〇〇円で済むようになりました。



私の体験  
グループホーム「ひまわり」  
入居者 中沢勇士夫



私は、魚野の家うらさの近くのグループホームひまわりに住んでいる中沢勇士夫です。皆さんに私の体験を聞いていただき、障がい者への理解を深めていただければと思います。

私は若い頃からスーパールの店員などの仕事をしていましたが、四〇歳になった頃、持病であった腰が悪くなり腰痛で入院しました。過酷な治療を受けました。結局よくなり、仕事も辞めて全く気力が出ない状態になりました。そして夜眠れない状態が続きました。それは一年間くらい続きました。私は、この世から夜がなくなれば良いと何度も思いました。また、逆に落ち着かない状態にもなりました。おかしな言動をしたこともあり、と診断されました。その後一年間「ひきこもり」の生活を続け

ました。この頃は生きる意欲を無くしてしまっていました。そんな時、町の保健師さんから「魚野の家」を紹介され、魚野の家への通所を始めました。始めはしんどかったのですがなんとか通い続けました。すると仲間もでき、少しずつ意欲も戻りいつの間にか魚野の家が楽しくなりました。二年ほど通所を続けていましたが、製造業の工場の仕事を魚野の家から紹介してもらい就職しました。その時はとても嬉しかったです。

原田製作所は、モーターの心臓部である正粒子を作る会社で、私の仕事は正粒子の表面を磨く作業でした。仕事は非常に張り合いのある満足するものでした。

仕事は大変でしたが、張り合いを持って頑張りました。そこで二年間働いたところで会社の業績が悪くなり、他の従業員とともにリストラされてしまいました。会社を辞めてくださると工場長から言われたときはとても残念でしたが、しようがないことなので次の仕事を早く見つけようと思い直しました。

魚野の家に通うことで生活リ



ズムを乱さず、ひきこもりにならず仲間とも会えます。仕事は張り合いになりますし、魚野の家へ通う意義を強く感じていきます。

魚野の家の発足は作業所時代から始まり、平成五年に八幡（南魚沼市六日町）に今の旧棟が出来て魚野の家が地域の中心的な存在になり、平成二〇年に新棟が出来てメンバーさんの数も増えて作業量も多くなりました。

母親が一昨年倒れ介護施設に入所したので、グループホームひまわりに去年からお世話になっていきます。自分のように親が高齢になったり、亡くなったりする場合には、グループホームを利用したいと思う人はもっと増えてくると思います。そのためにグループホームがたくさんあって、アパートも安い家賃で借りられるようになればいい

いなーと思つています。そして、障がい者が気兼ねなく生活できる地域になることを願っています。

魚野の家うらさができることを去年の夏に知り、私は心をときめかせました。魚野の家は地域の皆様方に愛される施設で、メンバーさんも仲良く仕事や作業や外勤などに頑張っています。浦佐の施設も、八幡の施設に負けず邁進する気力で作業に臨みます。

くよくよせず前向きに生きていくことが自分のモットーです。こういった場所で自分の体験を伝え、同じ病気を持つている人や身内に病気を持つ人の役に立つことが出来れば嬉しいです。ご清聴ありがとうございます。

\*今年三月、旧浦佐保育所に、障がい者作業所ドリームハウスと魚野の家うらさが入って「浦佐福祉の家」がオープンしました。三月一五日、四人の方の体験発表があり、その中の一人が中沢さんだったので。本文はその時の発表原稿です。

### 新入居者紹介 入居のごあいさつ ケアハウス鈴懸



村山朝子



私は北海道生まれの横浜育ちで、東京で商売をしていま

した。都会のネオンや車の音がいやで、主人と二人で浦佐に越してきました。主人が五二歳の時、脳溢血で倒れましたが、その甲斐もなく、主人は六五歳で亡くなりました。その後自分が乳癌になり、食べられない、眠れない日が続き、大和病院内科の松島先生の勧めで、八色園と大和病院のボランティアをやるようになってからは、食べられるようになりました。このボランティアは今もずっと続けています。

冬は雪が多すぎて困りますが、それだけに春の訪れが待ち遠しく感じられます。

三月二五日、夢草堂で岸本祐有乃さん指揮による城内中学校吹奏楽部コンサートが開催された。二月一五日に予定されていたが、インフルエンザの流行のため部員が集まらず、プログラムが変更されたのだった。生徒のみなさんの、せっかく練習した曲をぜひ岸本さんの指揮で！という願いが、叶えられた。

吹奏楽部顧問の関雅美先生は、今年度をもってご退職で翌二六日が離任式。また、すでに三年生は卒業式を終えていたが、ふたたびメンバーが一堂に会することができた。

岸本さんもこの日の夕方に予定がおりだったが、トンボ帰りのスケジュールも快く引き受けて下さった。

黒岩理事長と運営委員で司会進行役の池田豊美さんが、朝から夢草堂への楽器の搬入を行い、岸本さんが到着されると、お昼を挟んで午前と午後、生徒の皆さんとのリハーサルが行われた。

彼岸には時ならぬ大雪が降ったのだが、この日は曇りで薄日もさし、早くからお客さんが

集まり出した。

一曲目は「サザエさん」。だれでもよく知っている曲だけど、テレビではなく、生の丁寧な演奏で聞くと、まるで別の曲のようだ。サザエさんのキャラクターそのままに、陽気で明るく、時折入るお茶目な効果音が楽しかった。

ゆずの「栄光の架橋」、パルトゴとの演奏で「ルパン三世のテーマ」「手紙」と続き、吹奏楽ナインバーとしてお馴染みの「海兵隊」。

「夕やけ小

やけ」では、曲の中にほかの童謡が二曲潜り込んでいるという工夫がこらしてあって、楽しめた(「ずいずいずっころばし」と「七つの子」だったか、なるほど違和感がないなあと思って聞いていた)。時代劇メドレーでは、これまたテレビから聞こえるのとは違って、

岸本祐有乃の指揮による  
城内中学校吹奏楽部  
サンクスコンサート・イン 夢草堂

夢草堂運営委員 井口 美賀



例えば「暴れん坊將軍」などは、まるでラテン音楽を聞いているような、新鮮な感じがした。客席には、魚沼市の山内俊博さん(事故による頸椎損傷で、車椅子生活をしておられる)が、介助の方と聴きにいられていた。

アンコール曲はもう一度「サザエさん」。実は、数日前に開演時間の訂正があったのだが、こちらの手落ちで周知されなかった生徒の保護者の方々は、一曲目が聴けなかった。アンコールで聴いていただけで、よかった。

岸本さんの指揮はいつものようにカッコよくて、また演奏もとても堂々たる感じで、すっかり見とれ、聞き惚れた。それから曲の紹介をしてくれた何年生なのか、リーダーさんかと思うが、にこやかで清々しく、しかも落ち着いてびっくりした。娘も中学生だが、こうはいかないなと、密かに唸ってしまった。

終りに近い頃から、外は荒れた天気になっていたが、アンコールの後も観客席は余韻に浸っているように立ち上がる人がほとんどいなかった。

会場を片付けた後のスペースで、生徒のみなさんにお茶と「しんこ餅」で一息ついてもらった。みなさんの、緊張から解放され満足げな可愛い笑顔を、私も運営委員一年生としてほっとした気持ちで眺めていた。

この春から、長年の願いであった、新潟市での自立生活を始めるということ、プログラムの最後の曲は「未来へ」を演奏して、山内さんにエールを送った。(うちの次男もこの日の朝、社人として旅立って行ったので、私も感無量だった。)



帰ってきました！  
そして

### 屋台デー創始者の報告

「ここまでやるか！屋台デー」



鈴懸生活相談員 小林裕子

一年間の産休、育休を終え二月よりまた勤めさせていただいています。一年も休んでしまったので、入居者の皆さんに忘れられてしまったかなと少しドキドキしていましたが、ほとんど顔ぶれも変わらず、ますますお元気になられた方もいました。皆さんに愛想かもしれませんが「おかえり」と言ってもらい、嬉しく思っています。

産休に入る前に片桐栄養士と事務主任島村のアラフォー独身コンビに「料理のできない女はもてない、男に逃げられる」と言われていました。料理が苦手でもほとんど母任せだった私はこの休みを機会に料理に挑戦しようと思っていました。

また、両親ともに不規則勤務で小学校一年生になる長男と休日あまり遊んであげられない

生活でしたので、学校から帰ったら「ママが家にいる」という生活を楽しみたいと思っていました。というわけで、私の育児休暇取得の目的は赤ちゃんの育てはもちろんですが、長男の愛情と夫の胃袋をつかむためのものとなりました。

育休中は産まれた長女の憩（いこい）と子育て広場やスイミング教室に行ったり、長男の学校の宿題に付き合ったり毎日楽しく過ごすことができました。長男とは夏休みにべったり一緒に過ごすことができ、愛情がたっぷりつかめたのではないかと思います。料理の方もそれなりにやったつもりなのですが

### 残念！異色コンビ即解散

小林

島村



おいしいものをたくさん食べて、  
笑顔があふれる

三月の初め、毎年恒例となった「春の屋台デー」を開催しました。職員が得意料理で屋台を開き、入居者のみなさんに好きな物を食べていただき、楽しんでいただいている会です。それぞれの手作り看板も雰囲気盛り上げます。今年是一年間の主婦生活の成果を発揮しようと、事務主任島村との異色コンビでホットサンドを作り、初出店しました。準備がすすむうちに他の職員のセンスのよさに自分はずかしくなりました。小野寺ヘルパーの五目おこわ、厨房の八木調理師の水餃子、片桐栄養士のラーメン、桐の花星野マネージャーのすいとん、理事長の手作りこんにゃく、施設長の煮物、高野ヘルパーのデザートの数々、どれも味はもちろん、きれいに盛り付けられ、見た目にも食欲をそそります。私には料理のセンスがないことがわかりましたので、来年からはまた食べる側で参加したいと思います（笑）。そして、余興の時間には入居者や鈴懸施設長のカラオケ、宿直の関さんとお仲間の踊りで楽しませていただきました。

入居者の一人からも「どれもおいしく、楽しかった。ありがとう」と感想の手紙もいただき、嬉しくなりました。



歌あり、踊りあり…楽しい余興の数々

働き初めて三ヶ月がたちましたが、産休・育休代替で奮闘していただいた木村さんのきれいな字で細かく書かれた記録があり、みなさんの一年間の様子がよく分かります。字も苦手な私は、料理はあきらめましたので、またお休みをもらう機会がありましたら、目標は木村さんのように「きれいな字」になることに決まりました。



## ヘルパーのジレンマ

鈴懸おはようヘルプ

小林登美子



ヘルパーをしていて一番大変な事は汚れ物の始末などより、価値観の違いや介護保険制度の理解度の温度差である。

掃除で廊下をほうきで掃いたら「そのままゴミは外に掃きだしてくんねえかい」と言われたり、数ヶ月も前に賞味期限が切れているのに「あちこたねえ」と鶴の一声。腹具合を損ねないだろうかと心配しながら調理せざるをえない。

まだまだ色々な事があるが驚かされたり、心配しつつ受け入れ、健康上の事はやんわりと時間をかけて話し合っつ折り合い点を見つけていく。今まで自分が良いとし、長い時間の中で培ってきた事をいきなり否定されれば、誰だつて腹が立つておもしろくないだろう。

介護保険制度の元々の仕組みが自立の支援なのだが、これが中々分かっていただけでない。出来る事をヘルパーと一緒にし

ながら今の健康状態をできるだけ維持し、少しでも自分らしい老後を送るのである。

家事援助の調理では、献立、材料をどう刻むか、味付けなどをきめて頂き、手分けをし一緒に作る。動けない方は時には炬燵にまな板、包丁を運び刻んだり、味見をして頂いたりする。

掃除の時はヘルパーが掃除機かけをした後、歩行器につかまってクイックルワイパーをかけて頂いたり手の届く所だけ拭いて頂く事もある。洗濯物を渡しハンガーにかけて頂きヘルパーが干したり、体調によっては洗濯物を伸ばして頂くだけの時もある。

ケアマネージャーの立案したプランにそつてヘルパーの訪



サンルームでのお茶会

問介護計画を立て、サービス開始前に責任者が訪れ、よく打ち合わせをして内容を決める。ところがお金を払っているのだから何でもさせて当たり前とばかりに、計画にない事まで次から次へと要求してくる方もおられる。説得しても中々分かつて頂けず、しまいには苦情に発展する事もあり対応に苦慮している。

体調の悪かった方が少しでも回復されるととても嬉しい。また、持病がありながらも明るく過ごされている方、ヘルパーに怒る事もあるが含蓄のある話をしてくださる方等、様々な生き方をしておられる方々に会えるこの仕事はとてもやりがいがある。

長年、人に迷惑をかけてはいけないという価値観の中で生きて来られた方々は、他人（ヘルパー）の世話になるという事に抵抗があるのかもしれない。しかし、あくまで御自分が主役なのだ。ヘルパーと一緒に出来る事をやり、今の健康をできるだけ維持し、少しでも手伝って頂きたいものである。

## 入居者文芸

ケアハウス鈴懸入居者

鈴木スミ

今九〇歳の私が、高等小学校を卒業した一四歳か一五歳の頃の思春期の思い出です。

### 「七五年も前の

### 若き日の思い出」



なつかしい一筋の野路  
一人過去の夢を追って  
今日もまた一人寂しくたどりぬ  
君と語りし思い出の道  
あゝ、別れ征きて幾年か  
君は皇国の尊き荒鷲  
別れる胸は切なかつた  
何も言えず雄々しい後姿に  
唯：安かれと祈つたこの道は  
今日もそのまま  
遠き日の煙る想いでよ  
いつまでも胸に残るは  
あゝ、別れる時の君の瞳よ  
若き日の恋遙かなり  
君は今九段の森に神と祀られる  
（現役で出征、そのままビルマで戦死）

## スウェーデン七人旅 (その③)

桐鈴会理事長  
黒岩 扶子

2011, 9, 24～10, 2  
・ストックホルム・イエテボリ



ストレートトレードの中学校から帰って、夕方ブリッタさんという多発性硬化症（MSと略す）による身体しよがい者の家を訪問しました。ブリッタさんは、ハンソン友子さんのお友達で、二人で本を出しているのです。その本を今回の同行者である岡田弥生さんが、皆さんに配ってくださって、今回は非お目にかかりたいということで、訪問が実現したのでした。もともと、友子さんは、日本からの視察団の通訳として、ブリッタさんの家を訪問して、二人は知り合ったのでした。『私にもできる』—しよがいがあっても自立した生活（萌文社刊）というブリッタさんの初めての本を

日本語に訳したのが、友子さん。ブリッタさんは、一九三七年生まれなので七四歳なのですが、それよりずうっと若く見えます。

国営薬局に勤めている時に、体調が悪くなり、なかなか診断がつかなかったけど、四五歳のときにMSと診断される。入院したりしながら、それでも仕事をしたい一心で、在宅の仕事を探してもらって、不自由な手を使って、週一二時間の仕事を始めた。自立心旺盛なブリッタさんは、車いすの生活で、パーソナルアシスタントに毎日来てもらって、生活が成り立っている。今は、仕事はやめているが、七時半から四時までいてもらい、夜は九時から一時まで、夜中に必要になったら、緊急のコールをする。パーソナルアシスタント（PAと略す）は、ヘルパーよりも利用者に寄り添って、利用者との相性が大きな問題となる。ブリッタさんは、「相性」とは、「同じことを一緒に笑える人」と言っている。どうやら、資格としては、ヘルパーよりも厳しい基準があるように思えた。

この国には、介護福祉士という資格はないみたいで、介護をする人たちの多くは、中学を卒業して、准看護師の資格を取るための専門高校に行く。そうして解剖学を学ぶので、医療行為ができる。この准看護師に比べ



ブリッタさんとパーソナルアシスタントを囲んで

て、正看護師はずうっと少ない。これは高校の理系から、看護大に進む人たち。だから、管理職になっっているようだ。

さて、ブリッタさんの家に着いたら、若いPAがまだいて、そろそろ帰る時間だという。みんな

なで写真を撮って見送った。夕食は、本人があとはできるというところまでPAがやってくれて自分で最後を仕上げている人で食べるといふ。ブリッタさんの人柄にひきつけられて、いろいろな人が訪問する。毎月一回読書会もしていて、彼女の家が文学サロンのようになっていく。そんなことが彼女の若さの秘訣かもしれない。一日一〇時間半、PAに来てもらいながら、自立生活が守られているというのはすごいことだと思った。

ホテルに帰ってからは、歩いてすぐのところにあるレストランの生徒たちによる料理を夕食としてとりました。フルコースが、半値ぐらいで食べられます。メニューの選択によって価格は全然違ったのですが、私の選択した川魚料理は、とってもおいしくて文句なしでした。でもほかの選択をした人たちは、油が多いからか、評判が悪く、中には嘔吐した人もありました。

（桐鈴凛々第八〇号、八一号の続きです）



# 桐鈴川柳

- ・初釜に 着納めべへ着て 一服所望
- ・ラニーニヤで 北極振動 寒波襲来
- ・雅なる 内裏とともに 誕生日
- ・八十路過ぎ 記憶も引退 辞書片手 (桜梅桃李)
- ・広告は いいことばかりで 面白い
- ・みちのくの あれた中にも 光あり (わからんぼ)
- ・湯も茶も 要らぬと忙しく 白熊君付けて頂く
- ・降り止みて 弓張り月の 影うすく
- ・雪原に 光弾けて 鳥の飛び立つ (田んぼの蛙)
- ・雪々々 憎めない雪 真水の恩恵
- ・桜便り 三月三日の便りも 欲しい今日この頃 (井口未作)

- ・玄関の 松の形褒め 長居する
  - ・青汁を 飲むが形容 変わりなし
  - ・木の芽どき 「三光丸」の 薬屋来る (薫風)
- 二十三年度寄附者名簿**  
(寄附順、敬称略)
- 黒岩萌実
  - 黒岩海映
  - 黒岩帆姿
  - 新潟県信用農業組合連合会
  - 黒岩揺光
  - 黒岩巖志
  - 額田ヨシ子
  - 黒岩乙水
  - 前辻徹
  - 新潟県共同募金会
  - 鈴木スミ
  - 黒岩秩子
  - 田辺春一・キクイ
  - 鈴木智子
  - 赤澤珠
  - 赤澤鐵夫
  - 高橋静渡
  - 若林佑子
  - 松園典子
  - 上倉安雄

ありがとうございました

## お知らせ

○桐鈴会の HP をひらいてみてくださいませんか?

<http://www17.ocn.ne.jp/~tourei/index.html>

○「桐鈴凜々」もここに載っています。

○「ひまわり」のコーナーも作りました。」

## 「理事長の初舞台」

40周年記念 笹舟混声合唱団定期演奏会

◆日時 6月3日(日)

13:30~15:30(開場13:00)

◆場所 魚沼市小出郷文化会館

\*R17から小出IC方面に右(左)折、高速道路が「ド」隣

◆料金 1000円ということですが、来ていただく事が嬉しいので招待券を差し上げます。

◆ポピュラーな曲もあり、独唱もあり(もちろん私ではありません。ものすごく素晴らしい声の男性と女性がいます)、ピアノ演奏あり(プロの方です)去年も2時間では足りないくらいでした。その結果、この合唱団の団員になった秩子です。(黒岩秩子)



## 編集後記

五十嵐悦子さんから編集委員の後任をとという話を伺い、「とんでもない」と返事をしましたが、その後数回、勉強になりました。すよ等とすすめられ、又理事長さんからもお話を伺い、お引き受け致しました。

今振り返ってみますと、入居の当日職員の方々が笑顔で温かく明るく迎えてくださり、持っていた不安は直ぐに一掃されたことを思い出します。職員の方々には季節の色々な行事を計画され、心づくしに感謝します。特に春の屋台デーの楽しかった一日等が印象に残ります。

私も職員の方々の毎日の明るい笑顔の声かけにならって、日々を明るく過ごしたいと思っています。

残雪はまだ多く朝夕は冷えますが、草萌えるうらかな春を待つ今日この頃です。

(印牧クニ)

